

| 市の重点課題 | 学校の重点項目 | 自己評価 | 達成状況 | 学校関係者評価委員会から | 改善の方向 |
|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立 | <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の推進を柱に、一人一人が価値ある大切な存在して互いに認め合える学校経営を行う。 命の尊厳を理解し、いじめや差別、偏見は絶対に許さず、家庭や地域とも連携しながら、共感的かつ毅然とした態度で「チーム」として指導に当たる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 通常学級に在籍している難聴の児童が、自身の障がいについて全校に語り、全ての児童と職員がその障がいを理解し、温かい環境づくりに努めた。 「いじめを見逃さない日」をはじめ、いじめ対策監を中心に継続した指導に取り組み、安心して学校生活が送れるように努めた。 学校保護者アンケートで、92.7%が「楽しく学校に通っている。」と回答している。 | <ul style="list-style-type: none"> 障がいのある児童に対し、学校全体で配慮されている。 該当児童の気持ちに寄り添うだけでなく、他の児童の人間的な成長にもつながっている。 個を大切に指導し、子供たちの学びに対し、柔軟に対応している。 職員のチームワークもよい。 いじめ対策監が置かれ、配慮されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 集団の中でお互いを尊重し合う態度や行動を育むことで、誰もが安心して生活できる学校をさらに目指していく。 いじめや差別、偏見は絶対に許さず、家庭や地域とも連携し、未然防止に関する取組や早期発見につながる指導を充実させる。 いじめ防止の取り組みを保護者や地域に発信していく。 |
| 学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施 | <ul style="list-style-type: none"> 自ら学ぶ楽しさを味わえる授業づくりとして、「学び合い活動」を推進する。 ICTを効果的に活用し、主体的に学習活動に取り組める学習活動(家庭学習)を仕組む。 生活科や総合的な学習の時間をはじめ、土曜日等の教育活動において、地域の人的・物的資源を活用する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 「自ら課題解決に向かって、学び合う児童の育成」を今年度の研究テーマとし、全職員で授業実践を重ねていくことができた。 児童アンケートで、83%が「学習は楽しい」と回答している。 土曜日等の教育活動において、地域人材を積極的に活用することができた。多くの地域の方の協力を得ることができ、充実した活動ができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に取り組めるよう、先生方が普段から工夫した授業づくりに努めている。 先生たちが、ICTを多場面でうまく活用している。 「学び合い活動」は楽しさや、助け合う活動として、良い活動である。 学校外での社会とのつながりを積極的に取り入れていこうとする意欲が強く感じられる。 | <ul style="list-style-type: none"> 「できた」「分かった」と、学んだ喜びを実感することが、主体的な学びにつながると考え、自ら学ぶ楽しさを味わえる授業づくりに引き続き努めていく。 ICTを効果的に活用した主体的な学びの在り方について、職員で研修をしていく。 |
| 幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ふるさとを意識した幼小中一貫教育などを推進する。 幼小中での情報交換を行う。 地域の行事に参加し、地域の方や異学年との交流を通して、社会性を育む。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 6月と2月の2回、3園にお越しいただき幼小連携協議会を対面で開催することができ、各園の入学児童の様子や成長ぶりを見ていただくことができた。また、幼小で情報交換をすることができた。 岐阜城北高校の生徒との交流(読み聞かせやpowerpointを用いたプレゼンの作り方)ができ、地域のよさや人との関わり方を学ぶことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 岐阜や岩野田地域周辺の歴史や伝統文化を教え学ぶことは、子供たちの将来や成長にとって大切なことである。 地域の人材の活用(幼保～大学まである地域)を積極的に活用してほしい。 無理のない地域連携が進められるとよい。 学校運営協議会も保・小・高・大学と連携されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 校区の特性を生かした交流(幼保小中高大)や地域人材の積極的な活用をさらに推し進めていきたい。 コロナ禍で中止、縮小されていた地域の方や異学年との交流などをできる形で行い、社会性を育んだり、他との関わりについて学ぶ機会を増やしたりしていきたい。 |
| 教育環境と学校財務環境の整備 | <ul style="list-style-type: none"> タブレットやTe-comp@ssなどICT機器(ソフト)を活用した教師の働き方改革を進める。 時間外勤務が月45時間以内になるよう、業務量の適切な管理と見直しを行う。 学校納入金の適切な取り扱いと管理を複数で行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> タブレットやTe-comp@ss、スマート連絡帳などICT機器の活用によって、教師の働き改革を進めていくことができただけでなく、ペーパーレス化にも取り組むことができた。 全職員の4月～1月までの毎月の時間外勤務時間の平均はおおよそ40時間であった。また、月45時間を超えて勤務する職員数は、月平均9.6人であった。 | <ul style="list-style-type: none"> 十分な働き方改革をし、子供たちにゆとり、しっかり目を向けていただきたい。 授業にうまくICTを取り入れていくのがよいのではないかと。 お金や文書のやり取りをできる限りICT化していく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ICT機器やアプリをよりスマートに活用できるようになることで、働き方改革につながるようにしたい。 時間外勤務時間については、改善されつつあるも、さらに業務内容や業務量の適切な管理と見直しをしていく必要がある。 |
| 災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保 | <ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症をはじめ、様々な学校事故の「未然防止」に努める。 職員が危機管理意識を高くもつよう努める。 家庭、地域、関係諸機関と連携し、地域ぐるみで児童を見守る体制をつくる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 常にアンテナを高く広く張り、児童の様子を観察し、寄り添った指導を心がけることで、さまざまな学校事故に対して未然防止に努めることができた。 学校保護者アンケートで、88.6%が「学校は、子供に命の大切さや社会のルールを守る態度を育てようとしている。」と回答している。 コロナ陽性者は139名(1/26現在)。 | <ul style="list-style-type: none"> 事故対応などに、十分に注意が払われていると感じる。 しっかりと感染対策が取られている。 withコロナで、できることの取り組みをされている。 地域がもっと協力していく必要がある。 コロナ禍ではあるが、子供たちの体験活動を最優先でいきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校事故の未然防止や感染症予防などに対して、職員が危機管理意識を常に高くもち、児童の安全・安心が確保できるように努める。 家庭、地域、関係諸機関と連携をさらに密にし、児童を見守る体制作りを心掛ける。 |